

5-3 海水温上昇等による瀬戸内海の水産生物や養殖への影響調査

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考	
影響予測手法及び予測結果 (ノリ、ワカメ、カキ)	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	養殖時期や各イベントはその海域の海水温に大きく左右されるが、現在提供されている気候シナリオは、小地域の海水温を評価するまでの分解能はないため、実際の養殖地に適応するための検討が必要である。	
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった		
			現況再現を実施していない		
	(影響予測手法) 他地域での応用可能性	○		気候シナリオを入れ変えれば、他地域でも実施可能	地域によって閾値とする水温が違うなど、実際の養殖現場に即した評価手法を提示する必要がある。
				気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
				本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レベル	○		多くの行政担当者が自ら実施可能である	気候シナリオを対象とする地域に適合させる作業が必要である。
				気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
				研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性	○		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	今回目的としていた水温を中心とした予測評価は達成できた。一方、養殖への影響は水温以外の要素もあることから、そうした要素を含めた総合的な対応が望まれる。
				概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
				行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要	
影響予測手法及び予測結果 (アイゴ等、カタクチイワシ)	(影響予測手法) 現況の再現性	○	現況を再現できている	アイゴ等の藻食性魚については、点での生息情報はあったが、各種調査を重ねることで、広範囲な地域における生息状況を把握し、整理することができた。	
			現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった		
			現況再現を実施していない		
	(影響予測手法) 他地域での応用可能性	○		気候シナリオを入れ変えれば、他地域でも実施可能	今回整理したアイゴ等の生息実態についての知見を活用すれば、気候シナリオを入れ替えることによって、他地域でも応用が可能と考えられる。
				気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
				本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レベル	○		多くの行政担当者が自ら実施可能である	気候シナリオを適切に評価し、取り扱う技術が必要である。
				気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
				研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性	○		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	現在、各地の水産業で大きな課題となっている食害魚について、瀬戸内海全域を対象とした広域での予測結果が得られた。今後、他の時期の気候シナリオの整備が進めば、より一層、成果を活用できると期待される。
				概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
				行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要	
適応オプション (すべて)	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	現在の水産業の実情と将来予測に即して、様々な視点での適応策を提示することができた。	
		○	影響予測結果に対応した適応策を提示した		
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な適応策の提示を行った		
	導入可能性	○		他地域で実施・導入が可能である	対象とする魚類・藻類・貝類等のそれぞれについて提示した適応策そのものは、瀬戸内海だけでなく、他地域でも実施や導入が可能な普遍的な内容である。
				本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
				本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要である	
	他分野との関連性	○		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	水産業のみならず、水産業の持続可能性の前提となる生態系の保全等にも効果が期待できる内容を含んでいる。
				対象分野のみに効果がある	
				他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際に留意が必要である	
	適応策の多様性	○		適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	現状の水産業の継続、新たな対象種等の検討のそれぞれの視点から、対象とした各影響評価の適応オプションを幅広く提案した。
				適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られていた	
				調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提示できた適応オプションも限られた	

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。